

第3回 「国土交通広域連携中部会議」

詳細議事録（案）

日時：平成18年8月2日（水）13:00～13:50

場所：ウェスティングナゴヤキャッスル2階 天守の間

1. 開会

○開会挨拶（金井 中部地方整備局長）

中部地方整備局長の金井でございます。

本会議の主旨は、この地域のビジョンについて高い立場からご議論をいただくことです。前回は「ポスト万博宣言 国土の健康回復を実現する中部のモノづくり」という提言が公表されたことを受け、ご議論いただきました。今回は、「まんなかビジョン」について、特に今後の課題であります「人口減少時代の都市と中山間地のあり方」についてご議論いただきたいと思っています。これについては、国土形成計画や先ほど開催させていただいた、「（仮称）中部圏広域地方計画協議会準備会」とも密接に関係してきます。

特に、国土形成計画については、中央ではなく地域主体で動かなければならない状況になっておりますので、様々な意見をいただき、今後の計画に反映できればと思っています。よろしく願いいたします。

2. 議事

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

◇第15回 国土交通中部地方有識者懇談会（まんなか懇談会）の結果について

「まんなかビジョン」について、これまでの経緯と、先般の懇談会で出ました各委員の意見を集約した論点を整理して説明します。

これまでの経緯としまして、「まんなかビジョン」が平成15年6月に公表され、16年3月の改訂版が公表されました。また、「まんなか懇談会ポスト万博宣言 テイクオフ中部2005 国土の健康回復を実現する中部のモノづくり」を万博閉幕後の平成17年9月に公表しました。この2つが、今後ビジョンを改定する際の出発点になるものです。

「まんなかビジョン」は、中部の位置する「まんなか」というイメージを初めて表に打ち出し、中部のビジョンを「まんなかビジョン」としてまとめたものです。そのような点においては画期的なことであったと思っています。この中では、中部として何をなすべきかということについて整理をし、「暮らしと産業が調和した世界に誇れる中部圏の創造」を中部の将来像と

して掲げています。

次に「ポスト万博宣言」ですが、万博が閉幕し、万博の成果を念頭に置きながら、また万博の理念の継承・発展を念頭に置きながら、中部を21世紀の日本発展の原点にしなければならないという点、もう1つは、21世紀を中部元年にしたいという点の2つの観点からまとめられました。万博の成果を踏まえた、「まんなかビジョン」の補足的な提言としてまとめています。

そこで今後はこの「まんなかビジョン」の改訂を平成18、19年度に行うこととなりますが、その際どういう点について考えていったらいいのかということが今回の議題となります。現行の「まんなかビジョン」については、平成17年度より中間評価が実施され、アウトカム指標を中心とした評価がなされ、まずまずという成果が得られました。しかしながら、この評価については、万博の成果と重なっている面もあることを理解しておかなければならないと思います。

先般、7月24日に開催しました「第15回まんなか懇談会」におきましては、どのようなことを念頭に置いてビジョンをどう改訂していくべきかについて活発なご議論をいただき、その中では、やはり「人口減少」ということが今後の議論の基層になるのではないかという意見をいただきました。

具体的な中身としては、中部の真ん中における役割、日本の真ん中として位置する中部の役割を再確認した上で、「安全・安心の国土づくり」、「環境」という視点を頭に置きながら、圏内の市町村が適切な地域間の役割分担をしていくことを考えるべきではないかという意見が得られました。そして、そのためにはメリハリのある社会資本整備、インフラ整備を進めていくべきではないか、また実行すべきではないかといったところへ議論が展開されました。したがって、「一律から選択と集中」へ、インフラ投資について重点化をすべきだということが議論の中で得られた考え方となります。

そこで、都市と中山間地域が適切な役割を分担して共存していくわけですから、都市は都市、中山間地域は別々に分けるのではなく、都市と中山間地域を一体として考え、相互補完の関係を念頭に置きながら一体管理をしていくことを考えるべきではないかという意見も得られました。また、その基礎を固めるためのインフラということで、「交流」と「モノづくり」を念頭に置いたインフラ整備を進めていくべきではないかということについて議論が集中しました。

そして、これから進めていく様々な施策を測る物差しとしては、「まんなかビジョン」のフォローアップという観点に立って、中部の「環境」と「交流」ということから、これからの中部のあり方を考えていくべきではないかという点について意見がまとまりました。

本日の資料に「【まんなか懇談会】まとめ要旨」がありますのでこれをご参照いただきたいと思います。

いずれにいたしましても、人口減少化時代ということを非常に厳しく受け止め、その中で万博の理念をどのように継承していくかといったところに今後のフォローアップの一つの視点があるのではないだろうかというのがまんなか懇談会での得られた答えです。したがって、万博の理念を継承していくために何をなすべきかといったところに議論の重点が置かれました。

最後に一言だけ私からやや異質的なことを報告させていただきます。本日の資料の中に参考資料が綴じ込んであります。これは、「中部（東海、北陸、信州）広域観光推進協議会18年度

事業計画」というもので、中部における今後の広域観光の推進計画を示しています。これから中部においては、「環境」と「交流」ということが非常に重要な視点となりますので、交流の一つの大きなポイントとしてこの資料を付けさせていただきました。

これについては詳しい説明をする時間はありませんが、重点としては、近いうちに具体的な観光モデルコースの策定に入りたい、情報発信の充実を図りたい、インバウンド事業の充実を図りたいということです。この3点を重点に置きながら、中部広域でなければできない事業、中部広域の方が効果的な事業、中部広域にその効果がムラなく還元できる事業を進めていきたいということが示してあります。

今後、国際的な交流が重要になってくる中では、観光が一つの大きな手段となります。交流（観光）を念頭に置きながらモノづくりの中部を発展させていきたいと考えております。いろいろとご指導とご支援を賜りたいと考えております。

◇意見交換

○石川 静岡県知事

これからの地域形成を考える際に重要なキーワードが「第15回まんなか懇談会」の検討メモの中にもたくさん出てきております。それらと共通すると思いますが、「連携」や「交流」ということが非常に重要なポイントになってくると思います。地域間の連携、あるいは地域間の交流です。

そのためにも、陸海空の交通ネットワークが果たす役割は非常に大きいと考えています。特に中部地域ということで考えると、陸海空の交通ネットワークを整えていく必要があると考えます。それにさらに加えるならば、通信のネットワーク、光ファイバーなどによる高速・大容量の通信ネットワークの整備も重要になるのではないかと考えています。

静岡県の場合はそのような観点から、陸については国主導で第2東名自動車道の整備、あるいは中部圏や隣接した関東圏との連携も深める意味で、三遠南信自動車道、中部横断自動車道、伊豆縦貫自動車道といった高規格道路の整備を進めていただいております。これらをできるだけ早く供用開始することが陸上交通のポイントになります。

それから、海上については、国土交通省中部地方整備局のご尽力によって、清水港、御前崎港、あるいは田子の浦港を、国際物流機能を発揮し得るようという事で様々な整備をしていただいております。これらも遅滞なく整備が進むようにやっていくことがポイントになると思います。

それから、空については、富士山静岡空港の整備を3年後の3月開港を目指して取り組んでおります。これが完成しますと中部圏は、中部国際空港と富士山静岡空港がそれぞれの役割を担い、外来者にとって2つの出入口ができることとなります。

今後、中部圏の経済力や資源を考えると、コンピューター空港などももっと整備されてしかるべきではないかと思っております。静岡空港の3年後の3月開港に全力で取り組み、空のネットワークの整備にも貢献したいと考えています。

陸海空、そして通信ネットワークの形成が非常に大きなポイントになると私は感じています。

○神田 愛知県知事

「まんなかビジョン」が、国家プロジェクトである中部国際空港、あるいは万博などをコアにして計画づくりを進めてきた中で、それらのプロジェクトが終了し、次の展開という流れになっている中で重要なことだと思っているのは、万博の理念や成果をどう継承していくかということです。とりわけ万博は環境をテーマにしました。環境施策をこれからどのように展開し、充実させていくかということは、避けて通れない大きな課題だろうと思います。

住民満足度調査の結果には、地球温暖化などは十分進んでないというような結果も出ているだけに、「環境」という点について精力的に、積極的に取り組んでいくのは、万博を開催したこの地域の責務だろうと思っています。

愛知県は現在、中部国際空港の周辺において、万博で行った様々な実証実験を続けています。たとえば燃料電池や水素ステーションについてです。今後もいろいろ実証実験を続けることによって、実用性や効率性、今後の技術の発展につなげていこうというのがその目的です。このような取り組みが、将来の循環型社会の形成やあるいは地球温暖化の防止などにつながる先導的なものになるのだろうと思っています。

したがって、環境というのはこれからの重要なキーワードですので、「まんなかビジョン」の改訂においても中心に据えるべきものだろうと考えております。

それから、極めて財政が厳しい時代、しかも住民ニーズが多様化している時代においては、「選択と集中」が必要だということは全く同感です。しかしながら、「選択と集中」ということは一般論としては言いやすいのですが、いざどの分野をどうするのかということになると極めて難しい課題だろうと思っています。広域的に考えた場合には、地域の特性や役割分担の明確化が「選択と集中」に関連してくると思います。「どこを集中的にやるのが効率的で機能的なのだろうか」、そのようなチェックをする必要もあろうと思っています。

その議論をする際にはまんなか懇談会は大変適切な場だと思っています。これから広域的に議論に期待をいたしておりますので、愛知県も議論に加わっていきたいと思います。

○野呂 三重県知事

人口が減少する時代に入っていく、あるいは成熟時代へ進んでいく中では、これまでとは違った形の追求が必要になってきます。そのような意味では、これまでの発想の延長ではないところにこれからの社会の活力を求めていくということでありますから、このこと自体大変大きな課題であると思っています。

基本的には従来の中央集権的な行政システムでは、これからの新しい価値観に十分対応できないと考えております。今後は、それぞれの地域の特色、個性を活かした魅力的な地域づくりを進めていく必要があります。一言で言えば、今後の地域については、自分たちの地域のことを自分たちで決めていくのだという、いわゆる地域主権の社会を構築することが重要であると考えています。

その際に一番重要なことは、住民それぞれ一人一人が個の確立をして、主体的に行動し、そ

して、その上で個人ではなかなかできないことを地域や行政がサポートしていく「補完性の原理」ということが大事になってくるのではないかと思います。「選択と集中」という話が出ましたが、このことも大事であると同時に、垂直的には「補完性の原理」が非常に重要であろうと思います。

それから、最も重要なキーワードとして私も「交流」や「連携」があらうかと思っています。垂直な「補完性の原理」だけではなく、地域間で連携をし、そしてお互いの強みを活かしていく、また、お互いの弱みを補完していくことが、地域の活性化につながっていくのではないかと考えております。関西圏や北陸圏と広く連携することで圏域の総合力を高めていくことも、「交流・連携」の中で大いに期待されるべきものだと思っています。

また、環境の問題も非常に強調されるところであります。私も最も重要なポイントであらうと思います。そういう意味では、この地域の一番象徴的なものとして伊勢湾再生プロジェクトがあります。こういったところで本当の意味での総合的な環境施策の成果が出てくるものでなければならぬのではないかと考えています。

○松原 名古屋市長

平成17年度の住民満足度調査結果を見ますと、万博の理念、成果を生かすという点、循環型社会の形成への取り組みや地球温暖化対策に関する設問で高い関心度が示されていることは、万博で大変大きな成果を得られ、環境万博、21世紀は環境の世紀であるということが互いに確認できたと思っております。

そういう意味で名古屋市では、万博を契機に市民意識が変化してきていることを受け、さらにそれを発展させるための人づくりが重要と考え、市民・企業・大学・行政などが、環境についてともに学び、展望を共有し合う場として平成17年度に「なごや環境大学」を開講しました。

これはキャンパスのない大学で、資格も必要ありません。環境について学びたい人が来て学べる大学です。さらに画期的なことは、なごや環境大学の講座の中で大学の単位に認定するというシステムが万博を契機にできました。これは、とてもすばらしいことであつたと思っております。

全体で82講座、8,900の方がここで学びました。そのうちの46講座くらいでNP0及び市民が講座を開講し、これはとても大変なことであつたと思っております。そして、平成18年は前期で65講座、後期で45講座を展開していく予定です。万博開催中には国際シンポジウムを2回開催できました。この地域が万博を開き、そして環境について大変センシティブな地域であるということをしちんと発信できたと思っております。

また、万博でゴミの分別を始め様々な取り組みを通して、市民が環境についての意識を高めました。その中で、博覧会協会からICチップの入った未使用入場券30万枚をいただきまして、市民にエコライフ宣言をしてもらい、個人個人がどういう行動をしたかということがわかるような取り組みも行っております。さらに、環境を配慮した行動をするとポイントが貯まるというシステム、「エキスポエコマネーシステム」ができました。

このような活動の中で、名古屋市民約27万人がエコライフ宣言をしてくれました。そのうち

子供たちは約18万人が宣言をしてくれました。このような気運を高めていくことが極めて大事だと思っています。

また、CO₂削減の問題も今後取り組んでいかなければならないことです。企業活動の中から出るCO₂は減ってきておりますが、市民生活に由来するもの、それから人が移動するとき、特に自動車での移動の際に発生するCO₂は増えています。

これについては、ライフスタイルを変えていただくということと同時に、パーク&ライドや低公害車、低燃費車の普及促進に取り組んでいかなければならないと思っています。そのために、渋滞による経済的損失及び環境負荷の増大といったことは極めて大きな影響があるため、そのような意味での道路整備がきちんとなされていくこと、さらにETCの普及がとても大きいことだと思っています。

ETCの普及は、時間短縮の面で言えば本当にすごく大きな効果があります。また、CO₂の排出の問題から言っても、とてもすばらしいと思っています。万博を契機にETCが飛躍的に普及したことはとてもすばらしいことと思っています。これを活かした都市づくりを今後していく必要があると私は今思っているところであります。

○小嶋 静岡市長

「まんなかビジョン」という将来ビジョンの取りまとめをされたことに対し敬意を表したいと思います。

この「まんなかビジョン」の目指すべき方向と、我々静岡市が考えている「安全・安心・快適に暮らせる自然豊かなまち」や「活発な都市活動を支える快適で質の高いまち」という方向性は、まさに一致していると思います。

その中で特に「人口減少時代の都市のあり方と中山間地域との関係」についてですが、これは中部圏全体を考えてこういう論点が出てきたと思いますが、川上と川下の関係はこれから大事なことだと思います。

そのような中で静岡市では、川上と川下がすべて一つの市域に入っており、人口72万人の都市住民、そして工業系の水源が自己完結している珍しい市です。安倍川あるいは興津川の伏流水、あるいは表流水が、人工のダムは一つもなく、72万の人たちの水源となっています。ただ問題は、最近山間地が荒廃し始めていることです。静岡市では市民の協力の下、30億円の独自の森林環境基金をもって10年来、山間地の荒廃を防ぐための森林の施業活動をしています。自分たちの生活の豊かさを醸し出してくれているのは豊かな森林地帯であるということが市民の共通認識としてあることをありがたく思っています。

これからの静岡を取り巻く方向ですが、静岡県知事からもお話がありましたが、10年のうちには第2東名自動車道、中部横断自動車道、富士山静岡空港、清水港の整備が進んでいきます。これによって、静岡のポテンシャルはかなり高まると思いますし、いわゆる影響を及ぼす範囲が非常に広くなると思っています。中部横断自動車道は、この中部圏の中では少々外れているかもしれませんが、我々の地域にとっては山梨県あるいは新潟県と直結する高速道路です。これは歴史的な悲願でありまして、もともと人の交流も非常に多かった所でのインフラの期待は

非常に大きいものがあります。

また、静岡県、静岡市は国の出先機関が入り組んでおります。中部国際空港が開港する前の静岡市民に対するパーソン・トリップ調査の結果では、JR新幹線を使う市民で、静岡の新幹線の駅から東京方面と名古屋方面とを比べますと東京方面が名古屋方面の3.4倍です。自動車では名古屋方面も多いのですが、それでも東京方面へ車で行く人が2に対して名古屋方面が1という結果です。

この結果では、関東との関係が非常に強いというのが静岡市の状況であります。ただし、中部国際空港ができましたので、利用する市民が増えてきているのも事実です。そういう点では、これから中部圏とのつながりは深くなっていくだろうと思っています。特に、中部横断道路などの道路のインフラが進んでいきますと、静岡から出る人、静岡に来る人の形態がかなり変わってくるのではないかと考えております。

○棚橋 岐阜県副知事

住民満足度調査結果にも出ていますが、「中部地方の農山村や漁村に、住んでみたい、働いてみたいと思う魅力がある」や「あなたの住む地域では、近隣市町村同士や河川の上流地域と下流地域の間で連携した取り組みや交流が活発に行われている」という点についての満足度、関心度が低下傾向にあります。

この結果は、私どもにとって非常に気がかりなこととして、実際、中山間地域の疲弊が進んでいるというのが現状です。

そのような中で岐阜県では、5月に全国植樹祭を開催し、その開催日を契機に森林づくり基本条例を定めて施行しました。山林あるいは森林の持つ役割は、環境、国土保全、災害対策の面から重要であることから、すべての住民が森づくりに参加する仕組みを作っていこうと取り組みを始めているところです。

今後のビジョンの改訂にあたっては、それぞれのテーマについて、地域間で、様々な面において、適切に役割分担をしていくことが必要であろうと思います。そして、この役割分担においては、「それぞれががんばってやってください」というだけではなかなか難しい問題があるかと思えます。そのようなことから、各地域が役割を果たしていくそれぞれの取り組みを地域全体で理解し、サポートし、参加をしていくような取り組みが、「まんなかビジョン」という中部の全体的な考え方を示していく上においては必要ではないのかと考えています。

また、中山間地域を守っていくためには、交通ネットワークの整備も当然必要になると思います。広域的な面での目配り・気配りを視野にも入れていただければと思います。

3. 閉会

○閉会挨拶（谷山 中部運輸局長）

中部運輸局長の谷山でございます。

本日は、「まんなかビジョン」の改訂に当たりまして、大所高所から非常に貴重なご意見をい

ただき誠にありがとうございます。

「まんなかビジョン」の改訂に向けましては、本日のご意見も十分踏まえながら、さらには、関係自治体、経済界、関係省庁と連携しながら取り組んで参りたいと考えております。今後ともご出席の皆様方には引き続きのご協力をお願いいたします。

◆終了